



レースが紡ぐ美と 社会の物語

文／服飾史家・中野香織

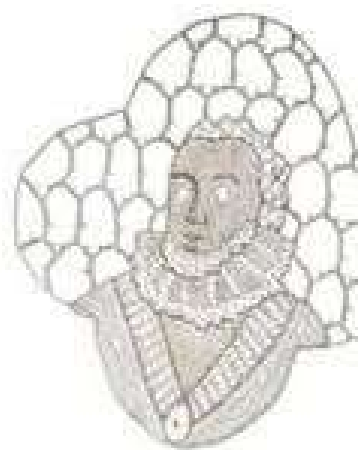
布を飾る技法には、アップリケ、カットワーク、ビーズワーク、刺繍など多くの種類があります。なかでも、ひととき繊細かつ華やかで、ラグジュアリーの象徴として君臨してきたのがレースです。その歩みには、各地の美意識のみならず、社会や政治秩序によって刻まれる複雑な歴史が編み込まれています。

貴族の象徴から政治の道具へ

装飾を目的とするレースは、16世紀頃、イタリアおよびフランス地方で誕生しました。針と糸だけで刺繍のようにつくられるヴェネツィア・レースは、立体感のある豪華な芸術品として王族貴族の威光を示し、ボビン（糸巻き）を用いるフランドル・レースは、軽やかで優美な装飾として人気を博しました。

いずれも高価な布と膨大な手仕事を要するため、貴族品として扱われ、貴族の衣服の標や袖口を飾ります。

この時代、ヨーロッパ各地で「奢侈禁止令」が施行され、レースを着用できるのは一部の特権階級に限られました。ラグジュアリーを享受できる階級を制限することで、国家は階級序列と社会秩序を管理しようとしたのです。ところが、18世紀末のフランス革命により、それまで権力の象徴だったレースは「旧体制の遺物」として忌避視されました。特にルイ



Kanari Nakano

ラグジュアリー・インサイト専門家として、活躍の場は多岐に。主にラグジュアリーと文化を軸とした独自のアプローチで、書籍・講演・教育・コンサルティングを行っている。6月に『イノベーター』で読者アパレル文化・服飾をテーマに『日本実業出版社』より出版予定。本書に『ラグジュアリー 変化が生み出す経済社会の課題』がロスメディアなど。

14世の財務総監コルベールが推進し、「レースの女王」と称されたアランソン・レースは、フランス宮廷の威光を象徴していたことから、革命政府の弾圧の対象となりました。貴族の多くが処刑されるなか、職人も仕事を失い、レースそのものも一時、消滅の危機に陥りました。

しかし19世紀以降、精緻な手仕事の価値が再評価され、2010年にはアランソン・ニードルレースの技術がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、歴史の荒波を乗り越えて息を吹き返すことになりました。

レースは常に階級の象徴だったわけではなく、時代のすねりに翻弄される人間社会を映し出す鏡でもあったのです。

社会変革、女性の自立を レースの威嚇し

19世紀には、産業革命の波がレースにも押し寄せます。イギリス・ノッティンガムではレース編み機が開発され、手仕事に比べて圧倒的な速度と均一性での大量生産が可能になりました。レースは上流貴族だけのものではなくなり、中産階級にも普及します。

一方で、大衆実業や資金持ちに苦しんだ職人たちは、機織打ち「レヴィ」（ラグダイト運動）を起すなど、社会階級のひずみが一気に噴出した。ここでもレースは、美の象徴に



上のデンティーフレースは、14
世紀の末に手織りで織造がつくら
れていた時代(17世紀)の貴族を
主としたアン・レース。極めて巧
巧かつ繊細なレースで、織り上
らせた精緻な花は、「デンティ
フ・レース」と呼ばれる。右
ページのアップリケも、ニー
ル・レースによって制作された
(19〜20世紀初期)。
資料提供：Hervé de MYACO

ていたのです。

さらにレースは、女性の経済的自立とも密
接に関わってきました。修道院や家庭での内
職としてつくられたレースは、女性にとって
貴重な収入源でした。19世紀半ば、大規模に
苦しんだアイルランドでは、かぎ針を用いた
アイリッシュ・クロシェレースが多くの女性
を支えました。修道女の指導のもと村の女性
たちは技術を学び、家計を助けたのです。

この動きはヨーロッパ各地へと広がり、フ
ランスやベルギーでは貴族や富裕家の援助に
よりレース学校が設立され、低収入や未だに
技術が伝えられなかった。こうしてレースは、
かつて特権階級の装飾品であった姿を残しな
がらも、多くの女性に社会進出の扉を開く手
段へと変容していきます。

テクノロジーと手仕事で輝く 新時代のレース

21世紀の今日、レースはさらなる進化を遂
げています。レーザーカットや3Dプリント
によるレースなど新技術の登場により、手仕
事を越える精緻なデザインも可能になりました。
アイリス・ヴァン・ヘルベンのような前衛
的デザイナーは、伝統とテクノロジーを融合
させて、レースを究極的な衣服へと昇華させ

一方で、フランスのアランソン、クロアチ
アのレボダウヴァなどでは、伝統的な手工業
としてのレースを無形文化遺産として保護し、
観光や地域産業とも連携する動きが盛んでい
ます。手仕事が生む高貴さと温もりが再び注
目され、人間と環境を大切に作る新しいラグ
ジュアリーの価値観を体現する存在となっ
ているのです。

こうしてレースは、何世紀にもわたる変革
の波を乗り越え、その姿や役割を変えながら
も、美の象徴としての本質を保ち続けてきま
した。一本一本の糸には、貴族の栄華と革命
による転機、労働者の声、そして女性たちの
希望が、静かに響み込まれています。

レースの歴史をたどることは、単なる装飾
の変遷を追うことではありません。美という
価値が、時に権力の象徴となり、あるいは生活
の糧となりながら、社会の変化と密接に結び
ついてきた軌跡を読み解くことでもあります。
優美な機織の背後には、階級、経済、ジェ
ンダー、技術といった社会をかたちづくる要
素が複雑に絡み合っています。それを知ると、
ラグジュアリーの象徴たるレースは、「美と
は何か」「私たちはどのような社会を築いて
いくべきか」を静かに問いかけてくるように
見えてくるのです。



多彩なレースアイテムに魅了され
る、2025年の春夏コレクション。
目の肥えたファッションセレクトも
ゆるぎない選り好み。この数、
先人にとけきれない上品な肌見せを
演出してくれることは確実。